

WUB Tokyo NEWS

No. 12 2013.5.15

発行 / WUB 東京 広報委員会

発行責任者 / 小畑 耕行

WUB 東京 連絡先

〒154-0001 東京都世田谷区池尻4-38-8-401

昭和生化学株式会社 内

FAX 020-4623-5326

URL <http://wubtokyo.com>

E-mail mail@wubtokyo.com



INDEX —ミニ・カンファレンス in 香港 報告レポート—

- ミニ・カンファレンス in 香港 —— 上原 永大
- WUB 東京バスツアー 福島県いわき市を訪ねて —— 国吉 真理子 ほか
- 復帰 40 周年企画 “あの頃は日本じゃなかったよね” —— 会員座談会
- WUB 東京 フラッシュバック (12 年 5 月 ~ 13 年 4 月)
- 情報発信掲示板 —— 新入会員紹介 / 法人会員表交代のお知らせ / 編集後記

ミニ・カンファレンス in 香港 2012

みなさん、こんにちは。上原永大です。

2012 年 11 月 8 日に開催された「ミニカンファレンス」に参加するために、11 月 7 日 ~ 10 日の 4 日間で香港へ行ってまいりました。海外の大会に参加するのも、海外の WUB メンバーと交流するのも初めての経験でしたが、非常に有意義な時間を過ごすことが出来たのでは、と思っております。この場を借りて皆さんへ簡単にご報告をさせていただきます。

●「世界大会」でなく「ミニカンファレンス」? しかも「香港」で開催?

これまでの WUB の集まりは、「世界大会」という名称で支部がある地域で毎年開催されてきたのですが、「毎年、世界のあちこちで集まるのは時間的にも経済的にも大変ですよね!」ということで、2008 年のブラジル大会を機に「ミニカンファレンス」と呼ばれる「支部の理事を中心に、集



香港に集結した世界の WUB メンバーたち

まれる人で集まって理事会議を行う」という会議と、今まで通りの「世界大会」とを交互に行うことになったそうです。(とはいっても、県が行う行事とか海外の県系団体などが行う行事とかとの都合により開催はフレキシブルになっているようですが。)また、今回は「香港」で支部(WUB 香港)の立上げが予定されていたそうで、「それであれば、お披露目も兼ねてミニカンファレンス最初の開催地は香港にしましょう!」ということで決まったそうです。永大は「香港だったら日本からも近いし、美味しいものも沢山あるし、会社も 2・3 日くらいなら休んでも大丈夫そうだし。よしっ!

WUB 東京 副会長 上原 永大

海外のメンバーに会える絶好のチャンスだ! 行ってみよう!」ということで参加を決めました。



●東京からの参加者

東京からの参加者は、10 名でした。WUB ネットワークの会長でもある長嶺為泰さんと奥様の潤子さん、同様に WUB ネットワークの事務局を兼ねる国吉真理子さん、そして WUB 東京理事の今井恒子さん、WUB 東京のメンバーである天久達子さんに比嘉正英さんと奥様の純子さん(純子さんはゲスト参加)、東京沖縄県人会事務局長の島袋徹さんと奥様の時子さんもゲストとして今回の旅にご参加されました。

●ミニカンファレンス (WUB ネットワーク会議) の決議事項

まず、旅の様子をお伝える前に本題である「ミニカンファレンス」で話された概要を皆さんにお知らせさせていただきます。

各支部の状況確認と近況報告ですが、現在、「WUB カナダ」、「WUB ヨーロッパ」、「WUB グアム」の 3 支部については具体的な活動が見られず、また動いていただける方もいらっしゃらないようです。ですので、これら 3 支部については「休会中または活動休止中」とし、外部(たとえば沖縄県など)から支部リストの提供などの依頼があったときには、その旨を記載しておくこととなりました。また、対応策として次回の「うちなーんちゅ大会」の開催時期までを目標として、「新会長(活動を担ってくれる人)を探していきましょう。」ということになりました。

「WUB ハワイ」からは、2013 年 3 月(本誌が発行されているころには終了してしまっすね。)に「第 3 回トークストーリーを開催します。」との報告がありました。「トークストーリーって何?」と思ったのですが、WUB ハワイのメンバーを中心に参加可能な世界の WUB メンバー、そして東西センターの学生や有識者が集まってざっくばらんに沖縄が抱えている問題について「ゆんたく」をする会、とのことでした。ちなみに、対外的には「トークストーリー」と言ってもピンとこない方も大勢いらっしゃるのでは、ということもあり何かしら説明が必要なきときは「懇話会です。」ということにしましょう、となりました。

また、新しい支部の立ち上げということで「WUB 香港」についての話がありました。会長は又吉真由美さんという方が務められるとのこと。又吉さんは、香港を中心にシンガポール、マレーシア、マカオ、ジャカルタ、上海、沖縄といったアジアの各地で「えん(EN)」という飲食店(レストラン、バー、居酒屋)を経営していらっしゃる非常にアクティブな女性です。香港にも当然ながら県人会があり、県人会自体も非常に活発に活動をしているが、WUBの「ビジネス(Business)」というキーワードに興味を持っている若者が沢山いらっしゃるということで、「その若い力を集めて香港での活動を盛り上げていきたいです。」と決意表明をされていらっしゃいました。香港での「ミニカンファレンス(WUBネットワーク会議)」会場と、盛大に開催されたパーティの会場はともに「Okinawa Dining Bridges」という又吉さん経営の沖縄風高級居酒屋でした。

そして、「第17回 WUB 世界大会(「ミニカンファレンス」ではないですよ!)」と第3回ウチナンチュ会議については、来年(2014年)に開催されることが決まりました。本来は今年(2013年)が「世界大会」の開催される予定であるそうなのですが、来年(2014年)がちょうど「ボリビア移民60周年記念の年」ということで、ボリビアの地で「移民60周年記念行事」が開催されるということもあり、それにあわせて「第17回 WUB 世界大会」と「第3回ウチナンチュ会議」を隣国の「ペルー」で開催いたしましょう、ということになりました。

その他にも、「東京の Webmaster である高宮城さんの協力で WUB ネットワークのホームページが開設された」ことや、「FB(フェイスブック)にある WUB ページを活用して交流の促進を計っていきましょう。」ということが話されました。

●WUBパーティの様子や旅の様子

2日目(11月8日、ミニカンファレンス開催日)の夜に開催された「WUBパーティ」はとても盛大なものでした。

沖縄組20名、関西組10名、ハワイ組10名、台湾組1名、アルゼンチン組1名、東京組10名、そして香港からは40名ほどの総勢90名あまりになるウチナンチュが香港の地で一同に会し、沖縄本土にも劣ることはない「沖縄料理」と「泡盛」を肴にみんなで交流を楽しみました。特に「WUB 沖縄」の事務局長を務める竹崎久仁衣さんによる書道パフォーマンスが開催されたときには盛り上がりは最高潮でウチナンチュらしい熱いパーティとなりました。この様



左から、東京の国吉さんと今井さん、沖縄の竹崎さん、香港の又吉さん

子は、香港の又吉さんによって You Tube にもアップされています。ぜひ、You Tubeで「WUB CONFERENCE 2012 in HONG KONG」というキーワードで検索していただき、当日の盛り上がり共有していただければうれしいです。

その一方で、われわれ「WUB東京組」もなかなかユニークな旅を経験しました。

まず初日(11月7日)の集合では“今井さん! 空港に来る途中で線路に靴を落とすっ!”というハプニングがあったり、(念のため)

に代わりの靴を用意していた今井さんもさすが!ですが)、香港についてからの夕食では、埼玉のパチンコ店



マカオのレストランで、「ありかんぱーい!」

情報に詳しい呉(ゴ)さんという話し好きなガイドさんに急かされ(1時間で夕食を終了し夜景観光と女人街観光へ連れ出される。)、ホテルに戻ってからは比嘉さん夫婦、天久さん、今井さんが市場の中にある地元のお店へフラフラとお酒を飲みに行ってしまう(ホテルから数十メートル歩くと昔の沖縄にあったような市場があって、その中に地元の人たちしか来なさそうなイイ感じのお店数軒があったんです。)、初日から今回の旅が楽しくなることを予想させる展開でした。3日目(11月9日)は、香港に集まった全てのWUBメンバーで「香港視察ツアー」に出ました。そこでは「インベスト香港」という中国本土や海外からの事業誘致を行う特別行政政府の機関を訪問しました。中国本土への玄関口として(直接中国に法人を設立するよりかは、まずは香港に設立した方がいろいろとメリットが多いそうです。)、またアジアの主要都市へのアクセスの良さ、世界で3番目に低い法人税やグローバルなコミュニケーション(英語)の取りやすさなど香港のアジアにおける優位性についての説明を受け、あらためて香港の便利さというのを実感しました。4日目(11月10日)の最終日は、WUB東京組で「マカオ」観光をしました。ほんの2時間くらいの滞在時間でしたので、「またみんなでマカオに来ようね!」という言葉を交わしながらポルトガルの雰囲気が残った空間を厳選して楽しみました。(ガイドさん曰く、「マカオを楽しもうと思ったら、3泊4日は必要ですよ。」とのこと。ぜひ、またみんなでいきたい場所でした。)お蔭様でカジノで億万長者になることもなく、庶民として日本に戻ってこれることができました。

今回の香港では、ウチナンチュのパワフルさを感じ、また香港のパワフルさを感じた4日間でした。WUB東京に出会えたことで世界のウチナンチュと交流が出来、私の小さな世界が少しずつ広がっていくのを感じています。思い切って参加して良かったです。大正解でした!

ぜひ、今後も機会を作って「ミニカンファレンス」や「世界大会」には参加をしていきたいです。世界のウチナンチュと交流できるWUBは楽しいですね。(以上)

WUB東京バスツアー 福島県いわき市を訪ねて

WUB東京 事務局長 国吉 真理子

2013年3月9日、1泊2日の日程で、WUB東京福島県いわき市を訪ねるバスツアーが、新橋沖繩ツアー東京支店(当時)前を出発した。参加者はWUB東京会員、家族、友人の総勢19名。WUB東京初のバスツアー、念願叶っての名嘉幸照さん訪問である。

日程は次の通り。

● 3 / 9 (土)

09 : 30 新橋集合 一路いわき市へ。

12 : 45 いわき市到着。シーフードレストランメヒコで昼食&名嘉さんと合流

14 : 00 視察へ出発 塩屋崎岬→新舞子海岸防潮林道→J-Village→広野町→楢葉町天神岬スポーツ公園展望台→小名浜オーシャンホテル着

19 : 15 懇親会

● 3 / 10 (日)

09 : 30 環境水族館・アクアマリンふくしま見学、いわき・ら・ら・ミュウ買物

12 : 30 東北エンタープライズ社訪問&警戒区域から避難している皆さんと交流会

夕方 帰京

新橋を出発して約3時間、いわき市に到着。昼食会場で名嘉さんと合流し、震災の爪痕を訪ねた。名嘉さんから渡された被曝量計を首にかけ、視察中の総被曝量を計測する。

美空ひばりさんの『みだれ髪』の歌碑で有名な塩屋崎岬へ向かった。その途中、パトカーや救急車が慌ただしく私達のバスを追い抜いていった。「遺体があがったかな」と名嘉さんがつぶやいた。震災から二年を経て未だ、家族のもとに帰っていない遺体がある。土台だけが残った住居、生徒のいない中学校、校庭の瓦礫の山。塩屋崎岬から眺める美しい海との対比に胸が痛んだ。

新舞子海岸道路へ向かう。名嘉さんの説明で、ここは近隣の海岸地域に比べ、被害が少なかったことを知った。理由



土台だけとなった住居と残った中学校

は道路沿いの二重防潮林にある。県道382号線をはさんで、海岸側にクロマツ、内陸側に広葉樹が植林され、津波に

襲われたものの多くの命と財産を守った。先人の知恵が子孫を守り、自然が自然を制したわけである。新舞子海岸道路を過ぎると町の空気が変わった。町全体がひっそりとし、半壊の住宅は今にも崩れ落ちそうだ。警戒区域が近づくにつれ、すれ違うのは防護服姿の作業員を

乗せた車と緊急車両になった。天神岬公園の展望台から見えた福島第二原子力発電所、そして東京電力の火力発電所。東京の生活はこの巨大な施設が支えているのだ。

視察終了後、装着していた被曝量計を確認した。午後2時から6時までの4時間の総被曝量は2マイクロシーベルトだった。

翌日、東北エンタープライズ社訪問と名嘉さん主催の交流会に参加。東北エンタープライズ社訪問は、私達の長年の夢だった。そもそも、震災が起こる以前から、名嘉さん訪問の企画はあり、名嘉さんからも「遊びにおいでー！うちでバーベキューしよう！」とお誘いもあった。しかしなかなか実現できなかった。そんな中、東日本大震災、その後の福島第一原子力発電所事故が発生した。私達にできることはないか。名嘉さんを訪ねたい希望はより募っていた。初めて訪問したTECO社は、経営理念の通りPeace (社員)がPeace (平和、幸せ)のために課題解決すべく団結している印象だ。富岡町から避難されている方々との交流会は、名嘉さんの名司会に泣いたり笑ったり。皆さんが用意してくださったお食事とお酒を共に楽しんだ。

WUBは1997年の発足以来、南米、北米、ハワイ、アジアの各地域で16回の世界大会/会議を開催してきた。なぜ毎年世界大会を開催したか。その理由のひとつは、顔を合わせる事が目的だろう。「沖縄」をキーワードに繋がる世界中のWUBメンバーだが、すでに生活様式も言語も思考も異なる。しかし、定期的に会うことで互いの信頼と絆を深める事ができる。

名嘉さんの案内で被災地の現状を知る事ができた。いわき市を出発後、津波の痕跡、道端に連なる黒袋入りの汚染廃棄物、瓦礫、ひとけのない町、知らぬ間に皆堅い表情になっていた。しかし、毎年飛来する上繁岡大堤の白鳥、そして仮設住宅での生活を余儀なくされながらも、私達の訪問にお料理を用意し、もてなして下さる方々に励まされた。福島と東京。わずか車で3時間の距離である。しかし、訪問して初めて知る事感じたことは多かった。

今回は、東京都の被災地応援ツアー助成対象で、多少なりとも福島県の復興の一助になれば幸いである。名嘉さん始め、TECO社のみなさん、交流会に参加したみなさん、そしてツアーに賛同し、ご参加いただいた友人のみなさん、会員各位に深く感謝したい。充実した1泊2日のバスツアーだった。



国吉さんは真央ちゃんと親子で参加



塩屋崎灯台をバックに記念写真



富岡町から避難されている皆さんと名嘉さんの会社にて

WUB東京主催の福島旅行に参加して

福島県の東日本大震災の被災地を訪ねた。現地地で合流した名嘉幸照さんの案内で広野町の海岸沿いに車を走らせたが、集落の跡は完全に土台しか残っておらず、津波という自然の威力をあらためて認識させられた。海岸沿いの堤防工事は始まってはいるが完成には程遠く、住民が元通りの生活を取り戻すのはまだ先の先になると思われた。

楢葉町の放射能汚染地域に入ると、津波の影響は全く受けて、地震にも耐えた立派な建物が立ち並ぶ集落が次々と現



天神岬から僅かに見える福島第二原発の煙突(画面左上)、第一原発はまだそのはるか先

れた。そこには住民の姿が全く見当たらず、不気味な感じさえした。

天神岬スポーツ公園に立ち寄ったが、原発事故前は家族連れで賑わったであろうに、今は人っ子一人いない無人の公園であった。



島袋さんは奥様時子さんにご参加

原発事故は地震・津波のような自然災害ではなく、全くの人災である。「安全神話」を全く疑わず、福島からの電気を当然のものとして使いつづけた自分にも責任の一端があるのではないかと思った。

翌日、現地の方々との交流会があったが、大災害の犠牲者でありながら、明るく、元気に復興へ立ち向かう姿を見せてくれて、逆にこちらが大いに励まされた。



島袋さんと歩く名嘉さんの手には線量計

福島にWUB東京メンバーを迎えて

初めてWUBの「えーく」に心をこめて発信できることを光栄に思っています。WUBの皆さまが当地を訪れ原発被災者と交流し、励ましの機会を得られたことは本当に誇りに思い、感謝申し上げます。

戦後廃墟となった沖縄も軍事基地という負の遺産を抱え、未だに県民は理不尽な思いをしています。

当地、福島も原発事故という負の遺産を十字架のように背負い、理不尽な思いを続けるのでしょうか。実に複雑な心境です。

WUBの皆さんとの交流の思い出に励まされています。

愛する故里沖縄を離れ、世界に天地と夢を抱いて移民した先人に、静かに思いを寄せると「何かしなければ」と老体にむち打って頑張りたいと勇気がでます。

沖縄には、幼い時からおじいーおばあーより教えられた素朴な言葉がいっぱいあります。人生の道知るとして小生の大事な宝物です。その一例を記しましょう。

ペルーに一時移民したアンリキ・高良おじいーの教えです。“手習(てしみ)から不足(ふす)財(じん)んからん不



東北エンタープライズ社の前で名嘉さんを囲んで

足く 楔(くさび)なて 我身(わみ)や世間(しげ)に尽くさ”つまり、“学問からも不足、お金も不足、でも自分は楔になって世の中に尽くしていく”苦労を重ねて、最後にアンデスの河でふんどし姿で砂金を掘ったわずかなお金で、リマで商売を始め成功しました。ほとんどの蓄財をインデオの子供たちの教育資金に提供しました。

最近、沖縄県副知事に就任した高良倉吉君はアンリキ・高良おじいーの門中で小生の親戚であり、島(伊是名)の後輩です。彼は琉大で歴史学者として活躍してきました。政治や県職員としては初めての任務になります。皆さんのご支援のご指導をよろしくお願い致します。

福島県の再生復興も長い道のりになります。全国の皆さんの“チームぐる・チームガナサー”のご支援をよろしくお願い致します。

WUB東京 名嘉 幸照



富岡町の除染作業をつたえるパンフレット

WUB東京「いわきを訪ねて」に参加して

WUB東京 理事 近藤 ゆうな

今回のWUB懇親旅行は私にとって初めての参加となりました。

今回の訪問先として父の住む福島県いわき市被災地を訪ねる旅と企画して下さいました理事の皆様方大変感謝申し上げます。

私が17歳まで育った福島は多くの自然に囲まれたとても素朴で心がほっとする場所でした。

しかしながら、東日本大震災で発生した津波による福島第一原子力発電所の事故から二年を経過してやっと「避難



天神岬で説明をする名嘉さん

解除区域」になった広野町のJヴィレッジ。震災前は、真っ青な芝生とサッカー少年達の活気あふれる掛け声が響き渡る場所でした。そんな

Jヴィレ

ジが現在、青い芝生は無機質なテントが張られた何処か戦場の戦闘基地を思いおこさせそうな無残の状態です。楢葉町の白鳥の湖。この湖には毎冬になるとシベリアから飛来する白鳥だけではなく、カルガモ、マガモ等沢山の水鳥達が集まる場所でした。私が幼少の頃からパンくずを湖に向かって高くふりまくと沢山の白鳥達が美しい羽を広げてうれしそうに食べている姿がまるで踊っているようでした。今回、事故から二年ぶりに訪ねたこの湖には以前のような面影がみられず、水鳥たちもまばらで、餌を投げても慣れていないのか寄ってきませんでした。ソメイヨシノの桜も五分咲きでしたが、美しい湖に映って周囲の風景は何も変わらないのに町には人影もなく閑散としてすれ違うのは原発処理から帰ってくる疲れ切った作業員達を運ぶ派手な色をした観光バスばかりです。改めて、ここは放射能汚染されている地域なのだと感じました。

こんな現実を目にした私はとても悲しくなり涙があふれ

てしまいがらツアーガイドを務める父に目を向けるとその父も目に涙を溜めながら必死にジョークを交えガイドをしている姿を見たとき、父のやるせない切なさが伝わってきました。



原子力発電所の建設に携わってきた父は、長年地元住民の方々との交流も深く、今回の事故はいろいろと辛い思いがあったと思います。事故直後からWUB東京の皆様には心温かい励ましを頂きましてありがとうございます。今回の福島への訪問は、父にとって本当に嬉しいと共に、参加された皆様には今の現状を被災者の方々と直接ふれ合って現実を知って頂いたことを沢山の方々に広めてほしいという思いがあったかと思えます。

事故から二年経っても、復興はまだまだ見えない遠い未来である中、被災者の方々は未だ辛い環境下で何とか前向きに頑張っています。

被災者ではない方々は日々忙しい当たり前の毎日を過ご



道路脇に広がる汚染土等を入れた黒い袋の列

し、少しずつ震災被害の事を忘れがちですが、事故直後に誰もが感じた被災者の方々に対する悲しい感情、温かい思いやりのある感情、その時感じた一人一人の復興を願う強い想いを忘れず、継続して伝え続けていく事が、少しでも復興の未来を近づける方法ではないでしょうか。



楢葉町の白鳥の飛来する湖「上繋岡大堤」

復帰40周年企画“あの頃は日本じゃなかったよね”—— 会員座談会

2012年5月15日に沖縄は本土復帰40周年を迎えました。それを記念してWUB東京では「あの頃(アメリカ世)の世俗・風俗・文化を語り合ってもらおう」という企画を試みてみました。「占領下の苦労や苦悩」、「基地問題」などについては、これまでに数多くの媒体から発信がなされているので、ここではあえて話題にせず視点を変えて「あの頃の思い出話」を主体にしました。懐かしく思い出していただいてもOK、「へえ～、そうだったんだあ」と初めて知っていただいてもOK!です。どうぞご覧ください。ちなみに、泡盛を飲みながらの座談会ですのでちょっとした間違いなどを発見されても許してくださいね!

- 2013年3月30日(土)新富町「仲宮里」にて開催。
- 参加者と復帰当時(1972年5月15日)の年齢は以下の通り。
長嶺さん(たぶん30歳)、比嘉さん(23歳、大学生で東京在住)、
玉城さん(13歳)、高宮城さん(13歳)、平良さん(8歳)、
国吉さん(4歳)、永大(1歳)

平良: なにから話しましょうか? そういえばあの頃は周りに外人もたくさんいたんですね?

高宮城: 物心ついたときには、アメリカ人が近くにいたしアメリカ住宅も近くにあって、基地の外にも住宅があった。アメリカ住宅は固まっていたし、ウチナンチュはウチナンチュで固まっていたよ。

玉城: 混在していたところもありましたよね。諸見小学校の近くとか。

平良: 今も多いんですか? 諸見の辺りとかは?

玉城: いや、今はもうほとんど無いんじゃないかなあ。当時は那覇にもアメリカ兵は多かったですよ。

平良: 今だと那覇ではほとんど目立たないですけどね。

玉城: あの頃はね、ちゃんと正装しててね。あの、あるじゃない、、、こんな形の帽子をちゃんとかぶってさ。カーキ色した。(注:楕円形の円柱型のものと思われる。)

玉城: 恰好良いなと思って見てましたけどね。

高宮城: そういえば、車も今と全然違いましたよね。

平良: Yナンバーってやつでしょ。

高宮城: いや、ナンバーじゃなくてアメ車の大きいやつ。

永大: そんなもんが沖縄を走っていたんですか?

玉城: いまでは米兵は日本車のぼろい中古車に乗っているけど、当時はアメ車のでっかいやつに乗っていたよ。

長嶺: 比嘉さんはあの頃は何かしてました?

比嘉: 僕は、もう東京に来てましたね。大学生のころだったね。パスポート持って。

高宮城: 東京にはどうやって?

比嘉: 僕は船で東京に来たんだね。2泊3日。船賃は2等室で6セントとか7セントくらいだったかな。

玉城: 私もあの頃に大阪万博に行きましたよ。パスポートを取って、予防注射も打って。

高宮城: うちの親父が良く出張してたけど、ほとんどが確か船でしたね。最初に乗った飛行機はノースウエストって言うていたかな。

比嘉: あの頃は直行便はなくて、シンガポール発の羽田経由でサンフランシスコ行きとかだったよね。だから、その途中で那覇に寄ったんだね。給油とかだったのかな。

長嶺: パスポートというよりは沖縄民政府の身分証明書でしたよね。

国吉: 青いやつで琉球政府って書いてありましたよね。

比嘉: 免許証もパラパラパラってやつでね。なんていうかな、アコーディオンみたいな折り畳みになってね。



大いに盛り上がり和やかに談笑中

そういえば、東京に出てきて2日目くらいだったかな。車で原宿から渋谷に向かう時に原宿交差点で右側走って捕まったことあってさ。沖縄は右側だったからねー。

国吉: えっ、そうなんですか!

比嘉: 警官が免許証見せれって言うから見せたらさ。こんな免許証見たことないって言い始めて。どこの免許証だ、って言うから琉球だ、って言って。ちょっと待ってろ調べてみるからって調べ始めてしばらくしたら大丈夫みたいだなって言ってきて。珍しいからコピー取らせてくれって。でも、それで勘弁してくれたんだよ(笑)。あの頃はまだそういう余裕もあった時代なんだよなー。

永大: その頃のパスポートと違って回収されたんですか?

長嶺: いや、回収はされていないはずだけどね。どうだったかなー。

玉城: されていないと思いますね。琉球新報の新聞博物館には先輩記者のパスポートが展示されてましたから。

国吉: ちょっと話題を変えて、中部の状況はどうでした?

高宮城: あの頃は胡屋が白人街でね、ネオンがすごかったですよ。特にセンター通りの辺りは。いまはパークアベニューって名前になっているけど、あそこそのネオンは本当すごかったですよー。もうギンギラギンでね。

国吉: 前に飛び出しているネオンですよ。お店にくっついてるんじゃないかと。

高宮城: コザ十字路の辺りが黒人街だったね。

永大: えっ、分かれてたんですか?

比嘉: 黒人のMPは白人街に入れなかったんだよ。何かあると入口で待ってたんだもん。白人のMPが白人街に入って、黒人のMPは黒人街に入って、ってそんな感じだったよ。

国吉: コザ暴動はどこであったんですか?

玉城: 胡屋から前川向けに…

高宮城: プラザハウスの手前で必死に止めたらしい、プラザハウスが壊されたら大変だ、ってことで。

国吉: じゃあ、結構長い距離だったんですね。

高宮城: あまりにも治安が悪くて3歳のときに親父の出身

地の北谷に引っ越したんですよ。コザに住んでたころアメリカ人同士で喧嘩が良くあったらしく、お祖母ちゃんがクリーニング屋をやってたんだけど、あるとき喧嘩してたアメリカ人がお店の入口から入ってきて、僕が寝ている奥の部屋の窓から逃げて行ったこともあったらしい(笑)。

玉城: 僕の場合は諸見に住んでたところに2軒隣にアメリカ人家族が住んで、子供同士だと何となく一緒に遊んだりして、ある時に言葉はわからないんだけど家に来いって話になって、行ったらそこのお母さんが美味しい缶詰とかケーキとかを出してくれるんですよ。こんなもの食ったこと無い!って感動して。それからは、みんな良く遊んでしょっちゅう食べに行きましたねー(笑)。

平良: アメリカは豊かだ、っていうイメージのまんまだっただんでしょね。

玉城: さっき言ったように車も違うし、食べ物も違うし…

国吉: 特にあのころ、60年代とか70年代はアメリカ自体も良かった時代だから。

高宮城: 育つ環境が違うと体験も全然違いますね。私は近くには外人住宅はあったけど、遊びに行ったことはなかったな。友達と野球チーム作って練習してたら、アメリカの子供たちが試合しようぜ、って言ってきて、だから試合はするんだけどルールが違うからいつも喧嘩ばかりしてたなー。

平良: 今のWBCと同じような感じだね(笑)。

比嘉: そういえば、僕が小学校2年のときにB円からドルに変わったね。

長嶺: 120円でした。円が360円でちょうど1/3でしたよね。

比嘉: B円っていうのは四角いものしかない記憶なんだけどさ、大きくなって何かの資料を見たらちゃんと長方形のB円もあったんだよ。幼いときだから小さい金額しか持たないからなんだねー。

高宮城: B円のBって、ABCのBなんですか？

比嘉: そうそう。

国吉: なんでB円なんですかね？ A円ってなかったのかしら？

平良: A円はどこに行ったのかね？

高宮城: それはエイエンにわからない…

一同: …(-_-)

(ここでおもむろに玉城さんが誰かに電話をする。)

玉城: B円の意味が分かりましたよ! B円の前にA円というのがあったらしい! 1945年に戦争が終わって、基地内で流通するようになったらしいんだけど、そのA円というのがブラックマーケットに流れてしまったようで



あの頃は平良さんも小学生で、きっと可愛かった?

それではだめだ、ということになったらしいんですよ。それで新たに民間でも使えるようにしてB円というのが作られたらしい。

高宮城: なんで最初からドルじゃなかったんですかね？

平良: それは沖縄がどうなるかがわからなかったからじゃない？

国吉: 復帰のころ、私4歳だったんですけど近くに“いっせんまちゃー”(駄菓子屋)があって、祖父にお金を持たされて買い物に行っただけですよ。そしたら返ってきたお金が見たことがないお金で、小母さんなんでこんなお金をくれるの、とも言えずに、とつてもドキドキして祖父にも怒られるかなと思ながら家に帰っただけで、祖父がニコニコしながら、真理子ありがとね、って言ったのをすごく覚えてますね。あれが初めて円を使った時ではなかったのかなと思いますね。

玉城: 初めて円を見たときって、おもちゃみたいだな、って思いましたよ。

高宮城: 確かに! ドルを見慣れているもんだからね。それにドルって紙の大きさが同じだったんですよ。それに比べて円は紙の大きさも違ったし。



同級生ということが判明した玉城さんと高宮城さん

玉城: しかもいろんな色が入っててね。

高宮城: もう一つ思い出したのは円の価値判断が出来なくてドルに換算して買い物しましたねー。

玉城: ほんとほんと! 円をドル換算してたねー。

国吉: あのときは360円じゃないでしょ？

高宮城: 308円だったね!

玉城: ドルショック、いわゆるニクソンショックとかで305円とかそのくらいになったんじゃないかな。でも沖縄県民が持っているものは保証しましよってことになったはずですよ。

高宮城: このドルは360円の保証をしたドルです、って判が押されてたんですよ。

国吉: えっ! そうなんですか？

玉城: そうじゃないと、何回もつかまされるからさ。

高宮城: その時にいろいろ問題が起こったんだよね。たとえば100ドル借りてる人が360円の保証をもらって貸してくれた人には保証がない100ドルを返してっていうことをやったりさ。

平良: そりゃ、360円と300円じゃ全然違いますもんね。へー、全然知らないことが多いですねー。

他にも様々な話題がありましたが、残念ながら紙面の都合上ここまでとなります。また企画できるといいですね。

2012年(5月) 23日/総会開催、霞ヶ関東海大学校友会館にて。小畑新会長誕生!新たに嶺山圭一理事、美崎太洋理事、今井恒子理事、近藤ゆうな理事が理事会メンバーへ。



みんなで小畑会長を盛り立てて行きます!

WUB東京 フラッシュバック (12年5月~13年4月)

湾、香港。WUBパーティーでは、香港の若手30名ほど参加、総勢70名超で香港の夜は熱くあつく。

20日/第5回理事会。香港の報告、合同忘年会企画等。

28日/関東沖縄IT協議会との合同忘年会、銀座スターホールにて。多彩な出演者に多彩な演出、エンターテインメントされた楽しい忘年会でした。



(12月) 8日/理事の懇親会。五反田アルコイリスにて。

2013年(1月) 16日/第6回理事会。福島懇親旅行の提案、WUB 沖縄東会長の「日本ユネスコ国内委員会委員就任」報告、えーく12号企画等。



(2月) 9日/第7回理事会。福島ツアー詳細、えーく詳細、次期総会等。

(3月) 9~10日/福島一泊旅行。宿泊は小名浜オーシャンホテル。福島在住の名嘉幸照会員案内のもと、各地をバスで訪問。翌日は、東北エンタープライズ社訪問、警戒区域から避難している皆さんと交流会



を持つことができました。

18日/第8回理事会。沖縄ツールの新橋オフィスでは最後の理事会。新橋オフィス、ありがとう!

30日/えーく座談会。比嘉会員の協力を得て、八丁堀の「仲宮里」にて。復帰前後の話に大いに盛り上がり、つつい電車の時間を忘れ...



り、つつい電車の時間を忘れ...

(4月) 16日/第9回理事会。沖縄ツールの浜松町新オフィスにて。えーく進捗、総会準備等。



(6月) 22日/2012年度第1回理事会。沖縄ツールの東京支店にて。小畑会長から講演会の提案。

(7月) 24日/第2回理事会。講演会準備、今年度の請求業務等。

(8月) 3日/講演会、杉原美憲講師による「介護保険制度の現場から」。現代に必要な情報満載で絶賛! 22日/第3回理事会。お座敷列車企画、NW会議の準備等。



24日/お座敷列車、品川駅から出発進行! WUBから総勢17名、1両を貸切り、羽目を外して大宴会!

(10月) 16日/第4回理事会。香港の企画等。



(11月) 8~9日/香港ミニカンファレンス開催。長嶺NW会長のもとでの初め



でのNW会議です! 参加支部は、アルゼンチン、ハワイ、沖縄、東京、関西、台



■新入会員紹介



●**比嘉正英さん** 初めまして。出身は浦添市前田です。現在は江東沖縄県人会の会長を仰せつかっております。以前より長嶺会長、今井理事より入会を促されていました折、香港旅行があると聞き、すてきな皆様と旅ができるならと即入会致しました。旅先ではとてもフレンドリーなお付き合いができ、帰京後も時々お会いできるチャンスがあり、非常に嬉しく思っております。WUB東京の皆様、今後とも宜しくお願ひ致します。(写真は奥様純子さんとお店にて)

●**宮城 拓さん** はじめまして。不動産業に従事しています。私とWUBのご縁は2007年のWUB上海大会に始まります。当時、中国上海市に駐在して上海沖縄県人会会長をしていた関係でWUBとの接点が生まれました。その後、11年振りに東京勤務となり前会長の平良智広さんをとおしてWUB東京の活動を知り、この度入会させていただきました。これからよろしくお願ひいたします。



情報発信 掲示板



●**當山 伸さん** 1971年生まれ、読谷村出身、宜野湾市在住です。東京で仕事をしていたころ、「沖縄と各地を結ぶ仕組みを作りたい」という気持ちが芽生え、WUBにめぐり会いました。その後数年が過ぎましたが、今回、親戚である“ひろかずTio”と、上原秀樹さんの紹介により、今回の御縁となりました。IT関連に従事し東京出張も多い為、皆様に御会いできる機会を楽しみにしております。今後とも宜しくお願ひいたします。(ひろかずTioとは知花弘和さんのこと。tioはスペイン語でオジサン)

■法人会員代表交代のお知らせ

玉城常邦様が株式会社琉球新報社の東京支社長として2012年6月に着任され、代表の交代がありました。



■編集後記

小畑会長よりバトンを渡され初めての編集長でした。総会に間に合うかどうかドキドキしましたが、編集委員の皆さんのお陰で何とか間に合いました。深謝です!(永大)